

岩に語れ(岩から出た水)
フォニックス アリゾナ州 アメリカ合衆国
1955年02月24日

1 ありがとうございます、兄弟。こんばんは、皆さん。

このシュライナー・オーデイトリアムで、私たちの愛する
主イエス・キリストの御名によって、こうしてまた集まり、
この第5夜の集会を持てることを心から嬉しく思います。
すべての賛美と栄光が、世々限りなく主にありますように。
昨晩は、私にとって少し難しい時でした。集会でめったに
起こらないことが起こったのです。

人々の上に幻が現れ始め、私とその幻の中に入っていこうとした瞬間、
その前に何かが起こりました。私たちはそのことについて、
私がようやく落ち着きを取り戻すまで、ほぼ今朝の1時近くまで
話し合っていました。

私は、アダムがエデンの園を自ら進んで離れたのを見ました。

それは彼が妻を愛していたからでした。

そして私は、イエスが自ら進んで罪人の立場を
引き受けられたのを見ました。

それは、主が教会を愛しておられたからでした。

私はそのことを語らずにはいられませんでした。

そして、その集会で主が祝福していただき、聖霊に満たされ、
失われていた人々が救われたと聞きました。

結局のところ、それこそが私たちがここに集まっている
最も大切な理由なのです。

2 神の癒しは本当に素晴らしいものです。

けれども、神の癒しというのは、ちょうど釣り針に付ける餌のようなものです。

魚に針を見せるのではなく、餌を見せますよね。魚が餌を食べれば、針も一緒にかかります。

人が一度でも癒され、神の力が何をするのかを見たなら、その人は信じる者となります。そうです。

さて、今夜こうして集まれることを嬉しく思いますが、少し遅れてしまいました。

実は今日は友人のトレーシー兄弟に小さな「手術」をしなければなりませんでした。

私は前から「その跳ねるサボテン(ジャンピングカクタス)にやられるよ」と彼に言っていたのですが、あまり信じてくれませんでした。

ところがしばらくすると、案の定、彼の脚の後ろにびっしりとカクタスが刺さってしまったのです。ペンチも何もなくて困りました。

私たちは少し砂漠を歩いて、「迷信山(スーパースティシャス・マウンテン)」の頂上に行き、そこで主へ

の賛美を歌いたいと考えていました。それが彼の願いだったのです。

しかし、登りの途中でサボテンの餌食になってしまい、それを取り除く「手術」をしなければなりませんでした。

3 彼は少し悲鳴をあげたり、うめき声をもらしたりしましたが、全部取り除くことができました。

テキサスにはこんな植物はありませんから、彼にとっては初めての経験です。

きっと彼は将来、曾孫たちに「迷信山(スーパースティシヤス・マウンテン)での出来事」として話すことでしょう。

そんなわけで、戻ってくるのが遅くなってしまいました。

そして、もしこれまでで一番大変な夜があるとするれば、それは今夜です。

山を下りてから、「今夜は早めに部屋に戻って断食し、祈りに専念しよう」と思ったのです。

私たちはまだ食事を取っていなかったなので、そのままそうすることに決めました。

部屋に入って祈ろうと聖書を手に取ったのですが、とても疲れていて、椅子に腰掛けたまま…

そして、午後の集会から戻ってきた人たちに起こされるまで、眠ってしまっていたのです。

4 その家の奥さんがこう言いました。「サンドイッチでも食べてくださいな。」

結局、フルコースの夕食を食べることに…しかも直径こんなに大きいステーキに、ありとあらゆる付け合わせまで。

それで私は「トレーシー兄弟、今夜はあなたたちで説教してください。私はどうも自分が説教するには少し力不足に感じています。今夜はただ、主が何らかの形で恵みをくださるように、恵みにすがって臨むばかりです」と言いました。

今夜は、神が許してくださるなら、再び旧約聖書に皆さんの目を向けたいと思います。

おそらく来週は新約聖書に入ることになるでしょうが、今夜はほんの少しの短い教えを分かち合いたいのです。

ところで、これは私にとってすべて新しい試みです——説教をしてから病人のために祈るのではなく、祭壇への招き(アルターコール)を先に行い、その後祈り、そして少し教えるというやり方で。

5 そして、いま、みことばを開く前に——。

この本のふたをこうして開くことはできますが、それを本当に開いてくださるのは神です。聖霊が神のみことばを取り、私たち一人ひとりの心に、その必要に応じて分け与えてくださいます。もし私たちが自分自身を聖霊に委ねることができるなら、説教者は自分の考えを使おうとせず、ただ聖霊に動いていただく。そして会衆も批判しようと思わず、ただ心を開いて、神の御前に正直に座る。そうすれば、本当の集会ができるではありませんか。

では、この後お読みするこの書の著者にお話するために、頭を垂れましょう。

6 愛する神よ、私たちは最もへりくだって、主イエスの御名によって御前に参ります。まず、私たちの罪と過ちをお赦しくださるようお願いいたします。

私たちには、私たちの弱さに同情してくださる、大祭司が栄光の中に座しておられることを知り、なんと嬉しいことでしょう。そのお方は、栄光の高みを登られ、すべての天使、大天使の上に、月も星も太陽も越えて高く崇められておられます。そして、へりくだって願い求める者の祈りを必ず聞いてくださいます。私たちには、この素晴らしい「天の電話回線」があります——受話器を取り、天の交換台であるキリスト・イエスに繋がれて、永遠に直結されるのです。

主イエスよ、来てください。今夜、御使いたちを遣わし、すべての座席にその配置を整えてください。救われていない者、キリストを持たず、神なき、キリストなき永遠、悪魔の地獄へ向かっている者に語りかけてくだ

さい。主イエス・キリストは、彼らをそのような運命から救うために死なれたのですから。どうか今夜、助けてください。聖霊がみことばの中に入り、それを取り出して一人ひとりの心に分け与えてくださいますように。

父よ、私たちが御前にへりくだらせてください。聖霊が今、すべての心を掴んでくださいますように。この集会から、あなたの栄光が現れますように。これらを主イエスの御名によって願います。アーメン。

民数記20章から短いテキストをお読みします。

主はモーセに言われた。

「杖を取り、あなたと兄アロンは会衆を集めなさい。そして、彼らの目の前で、その岩に語りなさい。そうすれば、その岩は水を出すであろう。あなたは、その岩から水を彼らに出して、会衆とその家畜に飲ませなければならない。」

そこで、モーセは主の命じられたとおり、主の御前から杖を取った。

そして、モーセとアロンは会衆をその岩の前に集め、彼らに言った。「聞け、この反逆者たちよ。私たちは、この岩からおまえたちのために水を出さなければならないのか。」

モーセは手をあげ、杖でその岩を二度打った。すると豊かに水が湧き出て、会衆もその家畜も飲んだ。

主がみことばの朗読に祝福を加えてくださいますように。

7 モーセがしたことの中で、これは神のことばに大きく反する行動でした。だからこそ、クリスチャンは注意しなければならないのです。

私の集会についても、よくこう言われます。「ブラナム兄弟、ロバーツ兄弟は500人のために祈るのに、あなたは5人しか祈らないじゃないか」と。それは事実です。しかし、ロバーツ兄弟は神が彼に命じられたことを行い、私は神が私に命じられたことを行っているのです。そこに違いがあります。ロバーツ兄弟は主から与えられた一つのタイプの働きを持ち、私は主から与えられた別のタイプの働きを持っています。そして私たち二人とも、神のしもべとして、神が命じられることを行わなければならないのです。

私の務めは、個人的に一人ひとりに接触することではありません。私の務めは、主イエスの復活の確信をはっきりと示し、「見上げて生きよ」と伝えることです。それが本質です。それはすべての人に向けられたメッセージなのです。ちょうどモーセが持ち上げたように…

8 わかりますか。ロバーツ兄弟に与えられているのは「癒しの賜物」です。彼は祈り、病人に手を置きます。そして、いわゆる非常に強く揺るがない“ブルドッグのような信仰”を持っていて、目を閉じ、ただ神が成してくださると信じながら、人々が通るたびに手を置いていきます。これは素晴らしいことで、聖書にもこうあります——「病人に手を置けば、彼らは癒される」と。

しかし、私はそれができません。私は人に触れた瞬間から、すぐにビジョンが現れ始めるのです。そして、その人をビジョンが終わるまで離すことができません(誰かが無理やり列の中を通してしまえば別ですが)。そしてビジョンがやってきます。私はこれまで、何をしているのか確信を持つ前に悪霊を追い出そうとしたことは、一度もありません。

9 多くの場合、人々は集会に参加しても癒されずに、家まで来られることがあります。そして「なぜ癒されなかったのだろう」と疑問に思うのです。そこでお話を伺うと、その方の人生の中に、まだ解決していない何か——やるべきことをしていない、あるいはすっかり忘れてしまっていること——が隠れている場合があります。もしかすると、それこそが、兄弟がその人に手を置いて祈っても、または教会で油を塗って祈っても癒し起きなかった理由かもしれません。

いいですか、皆さん。**原因を見つける前に、治療は見つかりません。**これは絶対です。

たとえば、あなたが医者に行って「先生、ずっと続く頭痛があるんです」と言ったとします。

そして医者が「じゃあこれを飲みなさい」とアスピリンを数錠くれるだけなら——その人は本物の医者ではなく、ただあなたを早く帰らせたいだけです。

本当の医者であれば、その頭痛の原因を突き止めるまで診断し、そこから治療を始めます。

同じように、ある人のために祈っても癒しが起こらない場合、必ずどこかに原因があるのです。なぜなら、神はご自分の御言葉に対して主権を持っておられ、それに忠実であり続けられるお方だからです。

10 ペンテコステの日にペテロはこう言いました。

「あなたがた一人ひとり、悔い改めて、罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けます。」

人が心から悔い改め、バプテスマを受けたなら、神は必ずその人に聖霊をお与えになります。

では、なぜ待つのか？なぜ長くかかるのか？——それは、まだ心のどこかに正しくない部分が残っているからです。

「もしかしたら神は私に与えたくないのでは？」と思うかもしれませんが、いいえ、必ず与えたいのです。

「もう多くの人に聖霊が与えられたから、私の分は残っていないのでは？」とも思うかもしれませんが、しかし神はあなたの分を十分に持っておられます。心配はいりません。

それはまるで、長さ30センチほどの小さな魚が広大な海の真ん中で泳ぎながら、

「この水は控えめに飲まないで、いつかなくなってしまうかもしれない」

と言うようなものです。

神の聖霊は尽きることがありません。まったくその通りです。

11 想像してみてください。

エジプトの巨大な穀倉庫の下に、小さなネズミが一匹いて、何十億トンもの穀物が積まれているのに、

「冬に食べ物がなくなったら困るから、一日に一粒か二粒だけにしておこう」

と言っているようなものです。

それは、神にあなたを救うだけの恵みがない、癒す力がないと思うのと同じくらい愚かなことです。

実際はその逆で、神はあなたが受け取ろうとする以上に、救い、癒し、恵みを与えたいと願っておられるのです。

また、世界中の水を一本の巨大な立ち管(スタンドパイプ)に詰め込んだとします。直径はわずかこれくらいでも、何千マイル、何万マイルもの高さまでそびえ立つような圧力があります。その水は、一つでも小さな隙間を見つければ、そこから押し出されようとします。

それと同じように、神の愛と癒しの力は、今この集会にもあふれるほど注がれています。

神はその神聖な愛と御心の圧力をもって、どうにかして人々の心に入り込もうとしておられるのです。

12 もし正しい近づき方を知っていれば、ただまっすぐに進んで行って、それを受け取ることができます。それだけのことです。

なぜなら、もし神が何かを約束されたのにあなたがそれを受け取れないとしたら、そこには何か原因があるからです。

人々はときどきこう言って来ます——

今夜は詳しく話す時間がありませんが、おそらく来週の証しの時間にお話しできるでしょう。

全国から人々が来て、「私は受け取れなかったのです」と言うのです。

13 ある婦人が、そう昔ではないある時にやって来ました。

彼女は「ある人が私には7つの悪霊がついていると言いました。でも別の人は5つしかいないと言ったんです。じゃあ残りの4つはどこに行ったのでしょうか？」と聞いてきたのです。

気の毒に、その女性はほとんど正気を失い、部屋に座り込むと靴下を脱ぎ、足を椅子の上に上げました。

「ここ数日食べていません。これらの悪霊がどこに行ったのか分かるまでは食べません」と言いました。

私は「それは何ですか?」と尋ねました。

彼女は「ある牧師が7つの悪霊がいると言い、ある女性の牧師は5つしかいないと言いました。だから2つはどこかに行ったんです」と答えました。

彼女は2時間ほど家に居座りましたが、そのうち神が語り始められました。

私はこう言いました。「奥さん、あなたはセントルイスから来ましたね」

「そうです。どうして分かったんですか?」

「ご主人は警察官ですね」

「その通りです」

「あなたは昔はとても素敵な主婦でした」

「その通りです」

「でも最近家は豚小屋みたいになっています」

「その通りです」

「今、あなたの娘さんがご主人の世話をしていますね」

「その通りです。誰が教えたんですか?」

私は幻の中で見えているので、そのまま話し続けました。

「まずあなたはお医者さんに行きましたね」

「ええ」

「注射を打たれました」

「ええ」

「それはホルモン注射でした」

「ええ」

「それから、ある場所に行き、悪霊がいると言われました」

「ええ」

「妙な感覚があったからですね」

「ええ」

「そしてカリフォルニアに行くように言われました」

「そうです」

「ある男性があなたに7つの悪霊がいると言いましたね」

「はい」

「そしてある女性が、5つしかいないと言いましたね」

「はい」

「そして、私のところに行けと言われたのですね」

「その通りです。どうして分かったんですか？」

私は「聖霊がそうおっしゃったのです」と答えました。

そして言いました。「そもそも、あなたには悪霊なんていません」

「いないんですか？」

「いません。奥さん、あなたのお母さんも更年期を経験されたでしょう。それは自然な変化です。ホルモン注射はそのためのものではないでしょうか？」

「そうだったんですか？」

「そうです。悪霊なんかじゃありません。ただの人生の節目です」

そう言うと彼女は少し落ち着きました。

妻が台所でベーコンと卵を焼いていたので、「お腹すいてませんか？」と聞くと、最初は断りましたが、やがて「ええ」と言って、卵3つ、トーストたくさん、コーヒー2杯、ジャムもたっぷり食べました。とても幸せそうでした。

彼女は「ブラナム兄弟、私のために祈って、これを追い出してくれますか？」と言いました。

「何を追い出すんですか？」

「この“もの”です」

「追い出すものなんかありません」

すると彼女は「こんなに気分がいいのは初めてです。何をすればいいでしょう？」と聞きました。

私は「家に帰って家を片付け、ご主人に厚さこんな(両手で大きく)くらいのアップルパイを焼きましよう。そして今晚ご主人が帰ってきたら、両腕で抱きしめ、キスをして、膝に座って『愛してるわ』と言って、女性らしく暮らさない」と答えました。

それで十分だったのです。

14 でもね、いくら油を注いでも、いくら足を踏み鳴らしても、蹴っても、大声で叫んでも、少しも効果はありません。

人を自由にするのは「真理」です。それが真実です。

「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にする」(ヨハネ8:32)——その通りです。

大勢の集会では、たとえば3~4百人がいやしの列を通ってくる中で、きよく純粋な心を持つ人がたくさんいて、その人たちはすぐにいやされていきます。

けれど、その中には、私たちがもう一度戻って拾い上げなければならないような、もがいている人たちもいます。そういう人は、最初は受け取れずに失敗してしまうのです。

私たちは、ただ神が仰せられるとおりにしかできません。

15 さて、もしある人が——力そのものではなく——神がなされることを信じる「信仰」を与えられていて、その信仰によって悪霊を追い出すことができる者が、神の御心の外でそれを行ったなら、その人自身が困難に陥ることをご存じですか？

今夜、モーセを見てみましょう。彼は預言者でした。彼が預言者であったことを信じますか？——ああ、彼は預言者の中の王子でした。その通りです。モーセのような預言者は地上に他にいませんでした。もちろん、イエス様は…イエス様は神性そのものであられましたが、モーセはただの人間でした。しかしモーセは、

あらゆる面でキリストの型でした——その誕生、律法を与える者、大祭司…すべてがキリストの型でした。

そして注目すべきは、神がモーセに力をお与えになったのに、彼はその力を用いて神の御心に反することをしてしまったということです。それでも彼は、あえてそれを行ったのです。

16 聖書に登場する若い預言者、エリシャを覚えていますか？

彼は本物の預言者エリヤに付き従い、その手に水を注ぐような奉仕をして、常に彼と行動を共にしていました。

そしてエリヤが死んだ——いや、正確には、天に取り去られた時、エリヤの霊がエリシャの上に臨みました。ところが、このエリシャは若い頃から頭がはげており、ある日、道を歩いていると、子どもたちが彼をからかい、「このはげ頭!」と呼んだのです。

すると、エリシャは怒りに燃え——もともと気性が激しいところがあり——振り向いて、主の名によってその子どもたちを呪いました。すると二頭の雌熊が現れて、四十二人も無邪気な子どもたちを殺してしまつたのです。

これは聖霊の御性質ではなく、怒りに駆られた預言者の行動でした。

私が「彼は気性が荒かった」と言った時、あなたがたの中で少し心が引いた方もいたかもしれません。しかし彼は本当にそうだったのです。

ヨシャパテたちが彼のもとに来た時も、彼の義憤はかき立てられ、「もしヨシャパテ王を敬わなければ、お前たちなんか見もしなかつただろう」と言いました。そして再び御霊の中に入るために、音楽を奏でてもらわなければならなかつたのです。そうでしょう？ その通りです。

17 モーセ、この偉大な勇士が登場したのは、まさに神がアブラハムに約束された時でした。神は、イスラエルの民が異国の地で四百年間寄留することを、長い忍耐の中で語られていました。

この期間には、ある「ずれ(遅れ)」があつたことを覚えておいてください。よく注意して聞いてください。それは正確に四百年ではなく、四百二十年でした。なぜなら、人々の状態のゆえにそうなつたからです。

モーセは人々を救い出すために「ちょうど良い時」に現れました。しかし民はその使者を拒んだのです。そのため、さらに四十年という遅れが生じ、合計で四百二十年となつたのです。

同じことは大洪水前の世界でも起こりました。定められた時はすでに迫っていたのに、神は長く忍耐されました——「神は一人も滅びることを望まず、すべての者が悔い改めに至ることを望んでおられる」からです。

ですから、大洪水のさばきの時にも「遅れ」があり、イスラエルの子らの救い出しの時にも「遅れ」がありました。ですから、これをしっかりと心に留めて、よく聞いてください。

18 では、私の言葉を正確に理解してください。「ブラナム兄弟が『イエスはもう来るべきだつた』と言つた』とは言わないでください。ですが私は、キリストの再臨はとうに予定を過ぎている、はるかに過ぎていると信じています。

すべての神学者たちが「このある時期の間に必ず来るはずだ」と知っていたにもかかわらず、彼らはそれを逃しました。なぜなら、神は長く忍耐され、「今夜ここに座っているジョン・ドウが滅びることを望まず、彼が悔い改めに至ることを望んでおられる」からです。同じく、ここに座っているミセス・ドウや、その子どもたちが滅びることも望まず、忍耐しておられるのです。

神はロバーツ兄弟を遣わし、大きな集会を行わせました。ほかの人々も遣わし、大きな集会を与えました。そして今、神は私たちを遣わし、大きな集会を与えてくださっています。「ひとりも滅びることを望まず、忍耐しておられる」のです。

今、ロシアには地球上のすべての原子を爆発させる

19 神は彼らに、「力ある御手をもってあなたがたを連れ出す」と約束されました。イスラエルの子らがエジプトに投げ込まれてからの巡礼の物語——私たちはよく知っています。神が彼らをそこに送られ、彼らはゴン

エンの地に住みつき、預言者ヨセフを通して大きな民となったことを。

しかし、約束の 때가 近づくと、ヨセフを知らないパロが起きました。いつの日か、私たちの間にもヨセフを知らない者が必ず現れるでしょう。やがて時が満ち、神は彼らのもとに救い主を遣わされました。

私が思うに、イスラエルが犯した最大の過ちは、出エジプト記19章にあります。すでに恵みによって救い主が備えられ、すでに小羊が備えられ、すでに解放が備えられていたのに、彼らはこう言ったのです——

「私たちが何かをしましょう。」

お分かりになりますか。

20 彼らは、自分たちが何かをしたいと思っていました。人間はいつも、自分自身を救う方法を見つけようとするものです。ここです——それが人間の本性なのです。

エデンの園で、人は自分が失われたと知るやいなや、自分で宗教を作り、いちじくの葉の前掛けを作って身に着けました。なぜ私がエバをととても美しいと思うのか、分かりますか？ 分かりますか、なぜこういったこと——この血統についてそう考えるのか。これは今夜に至るまで続く人間の性質です。

4,000年——いや、ほぼ6,000年経った今でも、人はなお、自分の功績によって自分の罪を覆おうとしています。肉を食べるのをやめたり、あらゆる日を守ったり、ああ、己を痛めつけたり……。人は、自分を救うためにできる限りのことを試みます。しかしそれは、愚か者でさえ見つけ損なうことのないほど単純なことなのです。そうです。聖書にそう書いてあります。

21 ただ単純に——「あなたがたが救われたのは、恵みにより、信仰によるのです」。

しかし人は、それを難しくしてしまい、光が見えたとか音が聞こえたとか、あらゆる不思議なことを持ち出して、人々を救おうとします。たとえ誰かがそういった体験をしたとしても、それはすべての人が同じ体験をしなければならないという意味ではありません。ただ、それが真実であると信じれば良いのです。

神にはご自身の計画があり、あなたが最も良くお仕えできる場所に、キリストのうちにあなたを置いてくださいます。ただし、それはあなたが自分の召しにとどまるならのことです。

他人の召しに入り込もうとしてはいけません。自分の召しにとどまりなさい。あなたが主婦なら、そのまま主婦でいなさい。神があなたに何をさせるために召されたのか、その場にとどまりなさい。神は、あなたに手を置き、あなたを用いるべきときにどこにいるかをご存じです。

かつて神は、ハンナという小さな女性を召しました。彼女は普通の主婦でしたが、神は彼女をどこに置き、何をなさるつもりかをご存じでした。マリヤという女性もそうです。ああ、神はあなたがただご自身に委ねさえすれば、望まれるとおりに用いてくださいます。へりくだり、ご自身を神に委ね、歩み続けなさい。

22 さて、約束の 때가 近づいたとき、神はモーセを遣わされました……。 (あと十五分ほどで終わりたいと思います。あまり時間を取りすぎたくありません。というのも、このままだと説教に入り込んでしまい、そのあと祈りの列に移れなくなってしまうからです。今夜は病の方々のために祈りたいのです。

ビリーが先ほど外で、「お父さん、今日の午後、祈りのカードをたくさん配りましたよ」と言っていました。ですから、できるだけ多くの方のために祈りたいと思います。では、続けましょう。)

23 そして、その 때가 近づいたとき、神はモーセを立て、神が定められた働きを行わせました。モーセはエジプトに下り、力強い御手によって、民を奴隷のくびきから導き出しました。そして彼らを紅海へと導き、それを渡らせました。

約束の地への旅路は、まさに今日の教会の美しい型です。あなたはエジプトから出てきたことを感謝していませんか？ 古いニンニク鍋や肉鍋、そしてこの世の楽しみや踊りから杭を引き抜き、今はドウラの地に天幕を張り(アーメン)、ここでキャンプミーティングをしているのです。私たちは山あり谷ありの歩みをしていますが、それでもなお約束の地に向かって進んでいます。火の柱はいまも前進し続け、毎年新しい宿営を築いています。そうではありませんか？

24 マルチンルターは最初の宿営を築きましたが、それをあまりにもきつく組織してしまい、ルーテル派以外の何者にもなれなくなっていました。すると神はまっすぐ進み、火の柱を動かし、子どもたちはそれについ

て行きました。

ウェスレーが次のメッセージを持ってきました。しかし、気がつくウェスレーもそれをあまりに堅く組織してしまい、動けなくなりました。そしてまた火の柱が動き出しました。

そこへペンテコステ派が現れ、それを受け継ぎ前進して行きましたが、やがてペンテコステ派もあまりにも堅く組織してしまい、「ワンネスか、ツーネスか、スリーネスか、ラクダのコブは一つか二つか三つか」などと争い出しました。その間にも神は進み続け、彼らを置き去りにしました。そうです。聖霊は進み続け、子どもたちはそれについて行くのです。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう！ いつの日か、主が東の地平線を破って現れ、叫び声が響きわたり、その命のラインを通して血で洗われた聖徒たちが現れるのです。私たちは日々見張り、祈り、子羊の血で衣を洗い清め、歩みながら日々信仰を新たに、主が送ってくださるものを何でも受け取るために心を開いているのです。すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える——それが愛であり、神なのです。神は愛です。

25 さあ、よくご覧ください。彼らが紅海に到着したとき、紅海が神の前に立ちはだかりました。考えてみてください——紅海が神の道をふさいだのです。神は御自分の子どもたちと共に前進しておられました。あなたは、今日も神が御自分の子どもたちと共におられると信じますか？

「しばらくして世はもうわたしを見ない。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしはあなたがたと共に、いや、あなたがたのうちに、世の終わりにまでいるからである」——神は今も御自分の子どもたちと共に動いておられるのです。

ここに、もう一つの美しい光景があります。あまり深くは立ち入りませんが、注目してください。パロの軍勢がイスラエルに追いつこうとしたとき、イスラエルは立ち止まらざるを得ませんでした。なぜなら、前には海という障害物が立ちはだかっていたからです。

しかし、神が海を分け、彼らを通す前に、火の柱が進み出て、パロとイスラエルの間に立ちました。そしてイスラエルには光となったものが、パロには暗闇となったのです。わかりますか？ もしあなたが真理を受け入れないなら、それは暗闇となり、あなたは暗闇の中を歩くことになります。「もし真理の知識を受けた後、故意に罪を犯すならば、もはや罪のためのいけにえは残されていない」のです。

26 彼らは進軍しました。

光の中を歩き——美しい光の中を——

慈しみの露がきらめく場所へと。

(あの古い賛美歌を覚えていますか?)

「昼も夜も 我らを囲みて照らす、

イエスこそ世の光」

イスラエルは進軍を続けましたが、その前には病のような障害、何らかの立ちはだかるものがありました。ところが、イスラエルが海へと進んで行くと、神は不思議なことをなさいました。

天のどこかに小さな裂け目を開き、ご自分の鼻から強い風を吹き下ろされたのです。その風は激しく吹き、海を乾かし、海は恐れて両側に退きました。そしてイスラエルは乾いた地を渡って行きました。

ああ、なんと驚くべきことではないでしょうか。

忘れないでください。その同じ神が、今夜ここにもおられます。

あの時だけの神ではなく、永遠に同じ方です。今もここで戸をたたき、
ご自身が陣営の中におられるという同じしるしと
証拠をお与えになるのです。

27 聞いてください。ここで少しだけ脱線しますが——聖書のどの時代、どの場所、どの場面でも、神のメッセージが進んでいるところには、必ずしるしと不思議が伴っていました。これはいつもです。ビジョンを失った時に生まれる、あの形ばかりの儀式的で死んだ宗教では決してありません。

士師の時代を見ても、何も起こらず、ただ冷たく形式的で儀礼的な事柄ばかりでした。そこには神が陣営の中におられなかったのです。しかし、神が陣営の中に入られると、しるしと不思議が起こり始めました。わかりますか？

さて、神は紅海を開き、モーセはイスラエルを導いて海を渡らせました。しかし、その光を拒み、光の中を歩むことを拒否した無割礼——儀式ばかりの人々は、どうなったのでしょうか。神は忍耐深く、彼らに信じるための十分な時間を与え、しるしと不思議も示されました。それでも彼らは顔を背け、「私は信じない。それは魔術だと思う」と言ったのです。

彼らは心にも耳にも割礼を受けていませんでした。「信仰は聞くことから、聞くことは神の言葉による」と聖書は言います。御言葉を受け入れることが新しい光をもたらすのです。しかし彼らは、イスラエル人のように渡ろうとしましたが、海は彼らを受け入れず、すべての者が滅ぼされました。わかりますか？

28 次に、ここに、かつてキリスト・イエスの立場をとったすべての信者の美しいものがあります。覚えておいてください、彼らは出てきます。なぜですか？なぜ神は彼らを支持したのですか？彼らは贖われた人々だったので、子羊の血によって贖われました。神は彼らを完全に保証し、死から贖われ、約束の地に連れて行かれました。わかりますか？

神が彼らと一緒に働くことができるのも不思議ではありません。彼らは血の下にいました。彼は彼らの罪を見ることができませんでした、なぜならそれは子羊の血によって隠され、贖われ、前進していたからです。「まあ、ちょっと待って、私に外を見て、何が起こるか、これをどのように行うかを見てみましょう」と言う彼らのビジネスはありません。彼らは彼ら自身の知識さえも使用しませんでした。彼らは御霊に従っただけでした。

29 そして今夜、新しく生まれたすべての人もまた、自分の知恵で物事を計算しようとはしません。というのも、それはあまりにも弱く、人間的で、腐敗に満ちているからです。彼はむしろ神の事柄を求めます。ここにあります——「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む限り、罪に定められることは決してないのです」。

昨晚、インディアンの友人がこちらに来ていました……。そこへ、可愛らしい小柄なスペイン系の女性が、涙を頬に流しながらやって来ました。私は何も言いませんでしたが、彼女と握手をしようと手を伸ばしました(もしかしたら今夜もここに座っているかもしれません)。彼女は胆石に苦しんでいました。その瞬間、彼女の上に幻が開けるのを見ました。彼女は私の手を取り、その甲に軽く口づけをしました。そして顔を上げると、とても満ち足りた表情をしていました。ここで神を証人として申し上げます——もし彼女が今ここにおられるなら、彼女は胆石から解放されたことを知っているでしょう。

また、小柄なインディアンの娘が、素朴で謙遜な様子で前に出てきました。真っ直ぐな黒い瞳で私を見つめ、ついに私の視線を捉えると、彼女の顔に小さな微笑みが浮かびました。彼女は胸の病を抱えていました。数年前、鉛筆を胸に突き刺してしまい、その傷のために長い間苦しんでいたのです。

もし彼女が今、私の声の届く範囲にいるのなら、心配はいりません、姉妹よ。あなたの信仰があなたを全く癒しました。あなたは必ず良くなります。それは真実です。彼女たちが単純な心で歩み、信仰が動いているのを見て……。私は心の中でこう思いました——彼女には何も言う必要はない、と。なぜなら、やがて自分でわかることだからです。神がなさったのなら、それで決まりです。すべてを語ることはできません。あらゆる方向に神のわざが広がっているのです。

30 それで私は、彼らが渡り終え、分け隔てられた民となった後のことを思っていました。神は罪からの**完全な絶滅(total annihilation)**を求められました——カルヴァン派が言うには意外な言葉のように聞こえるかもしれませんが、これは真実です。神は完全な絶滅を求められるのです。

では、人間が自分の力でそれをどうやって成し遂げられるでしょうか？できません。しかし、キリストがあなたのためにそれを成し遂げてくださったのです。だから、あなたはただキリストのうちにとどまっていれば良いのです。それだけです。神は罪をまったくご覧になりません。なぜなら、まず血を通してご覧になるからです。そしてその血を通しては罪が見えません。血を通して見るとき、神はあなたを白くご覧になるのです。ですから、ただキリストのうちにとどまっていれば良いのです。それはなんと単純なことでしょう。

そして私たちは巡礼の途上にあります。彼らがそうであったように、私たちも浮き沈みがあり、喜びの祭りの時もあり、また上下の繰り返しがあります。しかし、それでも私たちは道を進んでいるのです。

31 さて、これを見てください。

彼らが渡り終え、振り返ってみると、後ろにはかつての奴隷監督たちが死んでいるのが見えました。それは小さな喜びの祭り(ジュビリー)の時をもたらしました。私は時々そういう時があって良いと思います。あなたもそう思いませんか？それは、まるで灰を全部振り払うようなものです。

数週間前、シカゴのミシガン湖のほとりに立っていた時のことです。湖は氷であちこち凍りついていましたが、その中でも大きな古い海の波が押し寄せ、砕け、光を反射しながら、まるで怒っているかのように荒れ狂っていました。それは何とかして岸に打ち寄せようとしているようでした。私は思いました——「どうしてあんなに打ち寄せているんだろう？」と。

そしてこう考えたのです。「そうだ、今の波の中の水の量は、湖が完全に静まっているときと何も変わらない。ただ、今はリバイバルをしているだけなんだ」と。それだけのことです。その通りです。

32 あなたが主イエスを信じたとき、それで決着です。

イエスご自身がこう言われました——

「わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠の命を持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちへと移っている」。

今、私たちはリバイバルが必要です。

私は考えました——「なぜ海はあんなふう跳ね上がっているのだろうか？」と。

そこに、力強い突風が吹き降ろしてきて、リバイバルを引き起こすのです。

水の量は同じ(そうです)、けれどもリバイバルが起こっているのです。

それは何をするのでしょうか？

波は岸に押し寄せ、あらゆるゴミを浜辺に打ち上げます。

私たちにも時々“掃除”が必要です。

神は私たちにリバイバルを与え、教会の中を駆け抜ける力強い風を吹き下ろし、その中からあらゆるゴミを浮かび上がらせ、私たちを清められます。

神は、天から来る聖霊の風によって、あなたの魂を揺さぶり、内側を磨き上げられるのです。

同じ人間ではあっても、中身が洗い清められている——その通りです。

33 さて、ミリアムたちは後ろを振り返り、自分たちが敵から完全に引き離され、永遠に滅ぼされたのを見ました……。

どれくらいの間、安全だったのでしょうか？

「あなたが今日見ているこのエジプト人を、もう二度と見ることはない」。アーメン。

神は彼らを忘却の海に投げ込み、二度と思い出されません。

これが私たちの神です。

一度赦したものを、再び掘り返してあなたに突きつけるような方ではありません。

「それはもう忘れた」と言われるお方です。アーメン。

ああ、なんということでしょう！

ミリアムが熱くなったのも無理はありません。

彼女はタンバリンを手に取り、踊り始め、川岸を飛び跳ねました。

聖霊は、ちょうど原子がリレーで次々とエネルギーを伝えるように、人から人へと広がっていきました。

それでみんながタンバリンを取り、まさに本物の喜びの祭りとなったのです。

そしてモーセ兄弟もあまりに喜びにあふれ、両手を上げて御霊の中で歌いました。

もしこれがホーリーローラー集会でないなら、私はそんなものを見たことはありません。そうです。

これは新しいことではありません。古いものの新しいケースなのです。

そこでは皆が御霊の中で歌い、御霊の中で踊り、音楽に合わせて手を打ち鳴らしていました。

なんという時だったことでしょう！

なぜでしょうか？

彼らは敵から完全に滅ぼされたからです。アーメン。

そして神は、古い契約よりもはるかに優れた新しい契約のもとで、今も同じことをしておられるのです。

34 さて、神は彼らの必要(needs)をすべて満たすと約束されました。

ただし、欲しい物(wants)ではなく、必要な物です。

ですから、彼らはたった一日分ほどのパンだけを持って出てきました。

神は、あなたがかつて持っていた物や、昔の習慣ややり方に

しがみつ়くことを望まれません。それらとはきっぱり手を切りなさい。

神はそれよりもっと良いものを与えてくださいます。その通りです。

試したことがありますか？ 神は必ずそうしてくださいます。

あなたは言うかもしれませんが、「でも、私にはとても無理です」と。

いいえ、できます。ただ一度、手を離して、神に委ねてみなさい。

ただ委ねて、神がそれについて何をしてくださるかを見てごらんください。

35 して翌朝、彼らが起きてみると、何か超自然的なことが起こっていました。

お腹がすいて(ちょうど朝食の時間)、次の朝の朝食には蜂蜜をかけたワッフルがあったのです。その通りです。聖書には、小さなウエハースのような物があり、それは蜂蜜のような味がたと書かれています。すでに焼きあがったウエハースが天から送られ、その上に蜂蜜がかかっていたのです。兄弟よ、これ以上の朝食はありません。ええ、蜂蜜ワッフルです。彼らはそれを食べて舌鼓を打ちました。そして、それは型でした。

それはキリストの型であり、キリストは栄光から下って来られ、ご自分をへりくだらせ、命のパンの姿となり、旅路のための命を与えるお方とられました。そしてそのマナは、彼らが千年王国に入るまで決して途絶えることはありませんでした。アーメン、そうでしょう？

そのマナは、安息日以外は毎日、同じように降り続け、やがて彼らが千年王国の型である約束の地に入るまで続きました。歴代のヘブルの預言者たちは皆、その至福千年を待ち望んでいました。そして、ペンテコステの日に降った聖霊は、その型として、至福千年が始まるまで変わらずに働き続けます。人々はこれから

も聖霊を受け、その同じ御業が至福王国の時代に至るまでずっと起こり続けるのです。

36 いのちのパンであるキリストは、天から下り、御自身を低くして、御自分のいのちを与えられました。それは、そのいのちを通して、人々が旅路の恵みを得るためでした。それはどこから来たのでしょうか。あの火の柱からです。そこからそれは降ってきたのです。そこにおられたのはキリストご自身、ロゴス、契約の天使であり、モーセがエジプトを捨てて、行き先も知らずに進んで行ったとき、彼はその方の道を歩んでいたのです。イスラエルの子らもそれに従いました。神が約束されたように、その天使が導くと。

そしてご覧なさい、神は言われました。「わたしはわが名を彼のうちに置く。彼はあなたがたの罪を赦さないから、彼に気をつけなさい。」その時、まだ彼は人となって私たちの間に住み、血を流して私たちの罪を取り除くには至っていませんでした。ですから、羊や山羊の血は非常に脆く、すぐに効力が絶えてしまいました。

しかし今は、キリストの血がひとたび流されると、贖いの日まで清め続けるのです。聖霊による聖別の過程を通して、主イエスの血によって完成された信者は、贖いの日までしっかりと繋ぎとめられています。なぜでしょうか。そうです。エペソ4章30節にこう書かれています。「神の聖霊を悲しませてはならない。あなたがたはその聖霊によって贖いの日まで封印されているのである。」

37 これで、もう恐れはなくなったではありませんか。神は私たちと共におられるのです。たとえあなたが罪を犯しても、あなたには弁護者がおられます。神に「ごめんなさい」と申し上げ、戻ってきなさい。それが正しいやり方です。自分は永遠に捨てられたなどと思っははいけません。まだこの教会に来たいという思いがある限り、来なさい。神はまだあなたと共におられるのです。その通りです。そうなのです。

はい、主があなたを召された限り、あなたが歩み続けるなら、主は前進し続けてくださいます。神は今も救いの業を行い、あなたを召し続けておられます。そして、神が召しておられる人には、今もなおその心に呼びかけておられます。あなたが何をしてきたかに関わらず、神はなおもあなたを赦し、受け入れたいと望んでおられます。そして、あなたを少し愛し、胸に抱き寄せ、霊的なビタミンを与え、再び教会に戻し、あなたの本来の位置に立たせてくださいます。主は、失われた者を贖い、捜し出して救うために来られたのです。

38 さて、よくご覧ください。マナが降り、それを彼らは食べました。それは命のパンであり、旅の間ずっと彼らを支えました。そして彼らが型としての至福千年、すなわち、もう死ぬことなく千年間生きることのできる、あのもう一つの約束の地に入ったその日、マナは降るのをやめたのです。

これは非常に美しい型です。今日、天からのマナである聖霊が注がれていますが、私たちが至福千年に入るその日、ダビデの子キリストがダビデの王座に着かれます。アーメン。その時にはもう聖霊は必要なくなります。なぜなら、キリストご自身が肉体をもってここにおられ、「王なるイエス」としておられるからです。その時、すべての国々は剣を打ち直して鋤とし、もはや戦争は終わります。その時には、この地上で安息が訪れるのです。全世界が喜び、ヨベルの年がやって来ます。

さて、ご覧ください。彼らが旅を続けていくと……(急がなければなりません、あと5分ほどしかありません)……ご覧ください。彼らが向こうに渡ったとき……。不思議なことではありませんか。血によって贖われていながらも……。ここで注目していただきたいのは、人は自分自身では罪なき者にはなれないということです。贖いが必要なのです。

39 神が彼らのためになされた数々の奇跡や御業を見た後でさえ、彼らはまだ不平や不満を言いました。それでも神の愛は……。ある日、神はその全員を一度に滅ぼし、モーセから始めて新しい世代を起こそうとされました。するとモーセは(これこそ信者の力です)民のために間に立って叫びました。「神よ、私を飛び越えて行かないでください。彼らを取られる前に、まず私を取ってください。」

ご覧ください。神はモーセを飛び越えることはできませんでした。モーセが民を愛するその愛、神の御心はそれをご覧になり、ご自身の預言者を越えて行くことはできなかつたのです。ああ、なんということでしょう! 祈りが何をすることができるか、お分かりになりますか。神を変えることができるのです。そうです、神がすでに「そうなる」と語られた後でさえ、祈りはそれを変えることができるのです。

ヒゼキヤ王は、預言者によって「あなたは死ぬ。家のことを整えよ。これは主の御告げである」と告げられました。するとその王は顔を壁に向け、激しく涙を流し、「主よ、どうか私を思い出してください。私は御前に全き心で歩んできました」と訴えました。その時、神はすぐに王に直接お答えになったように見えます。彼は国で最も偉大で力ある人物でしたから。

40 しかし、神にはご自身のなさる方法があります。

主は再び預言者に告げられました。「さあ、もう一度行って、彼に伝えなさい。」

イザヤにとって、それはどれほど屈辱的なことであつたでしょう。宮殿から出てきたばかりで、人々からこう問われます。

「私たちの愛する王はどうなるのですか？」

「主はこう仰せられます。王は死ぬでしょう。」

兵士たちの前に立っても尋ねられます。

「神の預言者よ、王はどうなるのですか？」

涙ながらに答えます。「主はこう仰せられます。王は死ぬでしょう。」

城門のところで、貧しい人々が聞きます。

「王様はどうなりますか？」

「主はこう仰せられます。王は死ぬでしょう。」

そうして自分の小さな小屋に戻り、王のためにしばらく涙を流し、聖書を手に取って読み始めました。すると幻が下り、神がその中に立っておられ、こう仰せられたのです。

「引き返して、彼に伝えよ。わたしは彼の祈りを聞いた。」

イザヤはすぐに戻り、城門の貧しい人々に告げます。

「主はこう仰せられます。王は生きるでしょう。」

そして再び宮殿に上り、同じ言葉を伝えました。

「主はこう仰せられます。王は生きるでしょう。」

さらに、イザヤは小さな干しいちじくの袋を持ってきて、膏薬を作り、それを王に塗りました。三日目、王は神殿に行き、主を礼拝しました。

祈りが死から命へと変わったのです。

「信仰の祈りは病人を救い、主はその人を立ち上がらせてくださる。」

そうです、皆さん、これがその証なのです。

41 あれこれと不平を言い始めたために、どうなつたでしょうか。神は彼らの水の供給を断たれました。これこそが、今日、私たちの水の源が枯れている理由です。これこそが、アメリカでリバイバルが起こらない理由です——不平と不満です。

「あなたはアッセンブリーのメンバーじゃないから、私たちの仲間ではない。」

「いや、あなたはこうでなければならない、神の教会でなければならない。バプテストでなければならない、メソジストでなければならない……」——こうして、あれこれ言い合う。それこそが、私たちが前に進めない原因なのです。そうです。もし神の主権がなかったなら、神はすべてを閉ざしてしまわれたでしょう。その通りです。人々の不平のゆえに。

兄弟姉妹、私は申し上げます。人々が自分の教会や宗派の違いについて議論し、文句を言い、互いに不平を言い合っている限り、その人はまだ肉的な思いで歩んでいるのです。まるで小さな子どものように。どうか、時には大人になってください。

もっと全体を見渡してごらんください。どの教会に属しているかが、いったい何の違いを生むでしょうか。あなたが神の子どもであるなら、それで十分ではありませんか？それ以上の違いは、何一つありません。

42 バクスター兄弟が、よく私にこんな話をしてくれました。

カナダで、ある大会があったそうです。「市の半分ほどの距離、幅30センチほどの板の上を、自転車で落ちずに走りきれた少年には、シウイン社の自転車か、何か立派な自転車を贈ります」というものでした。

バクスター兄弟はこう思ったそうです。「これはもう、私がもらえるに違いない!」

彼は街に出て食料品の袋をぶら下げて帰ってくる時も、ハンドルに手をかけずに走れるくらいの腕前でした。

他の少年たちも挑戦しましたが、その中にひよろつとした、小柄で気弱そうな少年がいたそうです。彼もエントリーしました。

そしていよいよ本番。

みんな挑戦しましたが、板の上から落ちずに最後まで行けたのは、その小柄な少年ひとりだけでした。

競技が終わると、他の少年たちは彼のところへ行き、こう聞きました。

「どうして君だけが走りきれたんだ?」

少年はこう答えました。

「君たちはみんな、ハンドルをしっかり握って、足元ばかり見ていただろう?だからふらつくんだ。

僕は足元なんか見なかった。ずっと先の終点を見ていたんだ。そうすると、ぶれないんだよ。」

アーメン、その通りです!わかりますか?

今の状況ばかりに目を奪われてはいけません。

私たちは終わりを——主のご再臨を——見つめて歩むのです。

43 もし私が、今この状況だけを見回していたなら——何が起きているのかだけを見ていたなら——私は今夜、とても惨めな人間になっていたことでしょう。

しかし私は、信仰の創始者であり完成者である方——キリストを見上げています。

終わりの日、主が来られてこう言われるときが来ます。

「なぜ自分を囲い込み、あの側につき、この側についたのか?

なぜ、もっと大きな視野を持って、ここを見上げ、『渇く者はだれでも来なさい』とわたしが愛をもって招いているのを悟らなかつたのか?」

アーメン。私は言います——私たちは兄弟姉妹なのです。ですから共に立ち上がりましょう。アーメン。

いいですか、よく覚えていてください。

互いに争い合うと、水の供給は絶たれてしまうのです。彼らは互いに刺し合い始めました。

それは、あのサボテンのようなものです、兄弟姉妹——砂漠にあるあのとげだらけの植物です。

もしそこに、何年も豊かな水が注がれていたら、どうなっていたでしようか?

とげではなく、青々とした葉が生い茂っていたはずです。

44 これこそが、今夜の教会の問題です。

諸国を癒すための葉を持っていないのです。

水から離れ、互いにとげを刺し合う「とげ」になってしまったのです。

「あなたはこの組織に属していないから」と言って互いを刺し合う——

なんと刺々しいことでしょう!

そこに必要なのは、水です——聖霊という水を、豊かに注ぐことです。

45 不平や肉的な思いが、水の供給を断ち切ってしまうのです。

考えてみてください——

エジプトの濁った水を離れ、霊的な岩から流れる水を飲むようになったにもかかわらず、まだ文句を言っている民を、想像できますか?

エジプトの肉鍋やニンニクを捨て、天使の食べ物を与えられているのに、それでも不平を言う人々を、想像できますか?

また、エジプトの誇り高い医者たちが「奇跡の時代は過ぎ去った。奇跡などもう存在しない」と言っていたその場所を離れ、

「信じる者にはしるしが伴う」と信じる人々のもとに来て、
王のしるしが陣営の中にあり、大いなる不思議としるしが現れ、
上には火の柱がとどまり、天からは霊的マナが降っている——
それなのに、まだ不平を言う。

それは、創造主を侮辱することではありませんか。そうです、その通りです。

46 ああ、なんという時でしょう。

それでも神は、今なお憐れみに満ちておられます。

神はモーセに言われました。

「モーセよ、行って岩に語れ。彼らに水を与えよ。

彼らは、先月起こったすべての奇跡を忘れてしまった。

わたしが紅海を開いたことも忘れてしまった。」

今夜ここに病を抱えて座っているあなた、

あなたは、神があなたの魂を救ってくださったことを

忘れてはいませんか?

それは、あなたの体を癒すことよりも、はるかに

大きな奇跡だったのです。

彼らはすべてを忘れてしまった。

それでも、モーセよ、わたしはなお憐れみにおいて言う——

「さあ、来なさい。憐れみによって、わたしはもう一度この岩を開こう。」

(ああ、なんということでしょう!)

わたしが御言葉を送り、彼らがそれを目にし、耳で聞き、

説かれるのを聞いたのに、彼らは信じなかった。

それでもなお、わたしは教会に賜物を送る。

わたしは忍耐深く、しるしと不思議を示し続ける——とこしえに。

なんと素晴らしいお方でしょう!

47 そして私たちはまた、「どの教会に属しているか」について言い争いを始めるのです。

それでも神は、同じように雨を降らせ、私たちの魂を祝福し、リバイバルを送り、福音伝道者や牧師、教師を立て、教会にいやしの賜物、預言、異言、異言の解き明かしなど、あらゆる賜物を置いてくださいます。

私たちが口論や偏見、極端なことに陥っているその中にあっても、神はなお同じように、それらを送り続けてくださるのです——忍耐強く、待っておられるのです。

主のご再臨の前に、きっと誰かが目を覚ますだろう、と。

そしてモーセがそこへ行ったとき、人々が皆集まっていました。

神は言われました。

「杖を取り、そこへ行って、岩の前に立て。わたしはその岩の上であなたと会おう。」

ああ、なんという言葉でしょう——「わたしは岩の上であなたと会おう」。

48 モーセは最初にその岩を打ち、水を出しました——それはキリストを表す型でした。キリストこそが、その岩です。

よく考えてみてください。肉的な思いを持つ人なら、

すぐこう言ったでしょう。

「水を探す場所として最悪なのは、あの岩の中だ。あれこそが、

この荒野で一番乾いている場所だ。

もし、このヤシの木の下の泉にも水がないなら、

あの岩の中になんかあるはずがない。」

しかし、神は——ああ、神の知恵は人間にとって愚かに見えるのです。

「この国で一番乾いた場所だ。そんなところで水なんか

見つかるはずがない。」

それでも神はこう言われたのです。

「そこにこそ、水がある。」

今日の人々もこう言います。

「神のいやしがもしあるなら、それは地位の高い人々のところに

あるだろう。大きな教会やバチカン市国の中にあるだろう。

カンタベリー大司教のような人たちが、その賜物を持って

いるに違いない。」

しかし、それはどうでしょうか。

もしかしたら、それは通りの角にある、

古びたミッションにあるかもしれない。

そこで人々が手を打ち鳴らし、喜び歌っている——

そんな場所かもしれないのです。

人の目には愚かに見えるかもしれません。

しかし、「神は、宣教という愚かに見える方法によって、
失われた者を救うことを良しとされた」のです。

アーメン。分かってきましたか？

- 49 水というのは、私たちが最も予想しない場所にあることがあります。
なぜでしょうか。

肉的な思いはこう言うでしょう——

「なぜ岩を打つんだ？ モーセよ……」

陣営の中の名士たちはこう言ったかもしれません。

「モーセ、なぜあそこまで行って岩を打つんだ？」

——「神がそうおっしゃったからだ。」

「いや、この下の方で水がある場所を打てばいいじゃないか。」

——「神は、あそこで打てとおっしゃったのだ。」

ナアマンもこう言いました。

「我が国のあの川の水のほうが、この濁った水より良いではないか。」

しかし神は言われました。

「この水に身を浸せ。これがその水だ。」

ナアマンは鼻をつまみ、水に入った——それは彼の名誉を少し
傷つけたかもしれません。

しかし、確かに彼は癒されたのです。

今夜、私たちに必要なのはこれです——

自分の名誉を忘れ、自分の思い込みを捨て、
聖霊が語られることを信じ、神の御霊に導かれることです。

- 50 そして次に、彼らがまた渴いたとき——

神は彼らを導き出し、こう言われました。

「さあ、岩に向かって語りなさい。そうすれば水が湧き出る。」

今夜、ここにいる皆さんの中で——この“岩”と話ができない
関係になってしまっている人はいないでしょうか。

かつてハガルという女がいました。

彼女には、小さな渴いた赤ん坊がいました。

その子は死にかけていました。

彼女は思いました——主人のアブラハムの妻サラが、
なぜこんな仕打ちをするのかと。

彼女は忠実に仕えてきたのに…。

当時(多妻制が合法であった時代)、彼女は正しい手続きを経て
アブラハムの妻となり、やがて子どもが与えられました。

何の理由もなく、突然、理解できない出来事が起きたのです。

彼女は少しの水の入った皮袋と、パンの入った籠を渡され、
赤ん坊と共に荒野へと追いやられました。

死ぬために——です。

彼女には理解できませんでした。

やがて、その小さな子は水を求めて泣き始めました。

しかし、与える水はありません。

荒野の中、彼女は子どもを一本の木の下に寝かせ、
弓の射程ほど離れた場所に行き——そして“岩”に向かって語ったのです。

すると神が言われました。

「女よ、なぜ泣いているのか。あちらを見なさい。

そこに泉があるではないか。」

その泉は、今もなおベエルシェバに存在します——

「神は私をご覧になっておられる」という井戸です。

そう、彼女は“岩”に語ったのです。

51 ある日、一人の女性がいました。

彼女は長年、血の流れが止まらない病を患っていました。

全財産を使い果たし、農場を質に入れ、家畜もすべて売り払い、
医者に頼って癒やされようとしていました。

しかし、医者たちはあらゆる方法を試し、彼女のお金をすべて
取ったものの、彼女の状態は少しも良くなりませんでした。

そんなある朝、彼女はふと、柳の木のほりから聞こえる
小さな足音を耳にしました。

彼女はそこへ出て行き、“岩”に向かって語ったのです。

そして、彼女は願ったものを受け取ったのです。

また、マルタという女性がいました。

彼女は、説教者たちのために食事を整えるのが少しのんびりしていて、
姉妹から「これはすべきでない」「あれをしなさい」と小言を
言われたこともありました。

けれどもマルタは、少し気にしていないように見えても、

良いことを聞く耳を持っていました。

そしてある日——彼女の兄が死に、四日も墓に葬られていたとき——

マルタは外に出て、“岩”に向かって語ったのです。

するとその“岩”は、彼女の兄に命をもたらしました。

52 哀れなモーセ(このあたりで終わりに近づきます)。

彼はずっと“岩”に従って歩んできました。

しかしある日、彼が従順でなかったとき——

神はモーセにこう告げられました。

「モーセよ、チンの荒野で、あなたはわたしを高めず、わたしの栄光を現さなかった。

すべての功績を自分のものにしてしまった。

だから、あなたを向こう側へ渡らせることはできない。

さあ、このピスガの山に登りなさい。

これから先にあるものを、あなたに見せよう。」

——ああ、この場面が私は好きです。

わたしはホームシックで、疲れ果てている。

わたしはイエスを見たい。

わたしはあの甘い港の鐘の音を聞きたい。

それはわたしの心を明るくし、すべての恐れを消し去ってくれるだろう。

主よ、どうか時の幕の向こうを見せてください。

53 モーセは山を登りながら歌い、時おり振り返り、

涙で視界がかすんでいました。

彼は不従順を犯し、間違いをしてしまった人間でした。

それでも、神のしもべであり続けた人でした。

山の上に立った彼は、ダンからベエルシェバまで、

広く地を見渡しました。

春の四月、そこには大きな谷が流れ、乳と蜜の流れる美しい

地が広がっていました。

モーセはその光景に、心から渡りたいと願いました。

この子らと共に荒野で過ごした四十年——

八十年近くに及ぶ歩みの果てに、その地を見たのです。

そして神は言われました。

「モーセよ、準備をしなさい。身支度をせよ。

今朝、わたしはあなたをわが家へ連れて帰らなければならない。」

モーセは立って眺めながら、死の冷たい風が吹き上がるのを感じました。

脈が袖を伝って上がってくるのを感じました。

ふと足元を見ると、そこには“岩”がありました。

彼はその“岩”の上に一步を踏み出し——

天使たちは彼を抱き上げ、連れ去ったのです。

- 54 それからおよそ八百年後、私たちはモーセが変貌の山に現れ、
“岩”と語っている姿を見ます。

そうです——あの“岩”が、彼をここまで導いたのです。

あの“岩”が、私もここまで導いてくださいました。

「恵みによってここまで守られた、そして恵みがこれからも
私を導いてくださる」——それが真実です。

もし今夜、あなたが困難の中にあるなら——“岩”に語りましょう。

そこから溢れ出るのは、ほんのわずかな滴ではありません。

豊かにあふれ出る水です。

考えてみてください。

あの時、水を飲んだのは二百万人の人々——それに加えて、
すべてのラクダや家畜もいたのです。

それでも、その泉はあふれ、いたる所に豊かに流れていました。

今夜も、主には十分に備えがあります。

どうか、あなたもこのお方に語りかけてください。

では、頭を垂れ、祈りの時を持ちましょう。

- 55 愛する私たちの救い主よ——

ここにいる多くの人にとって、これが最後の集会になるかもしれません。

永遠の向こう側に行く前に、こうして共に座ることを許された、最後の機会かもしれません。

私はここに立ち、御言葉を語りました——そこには“岩”がある、と。

そして、その“岩”は打たれたのです…。

「神はそのひとり子をお与えになったほどに、この世を愛された。

それは、滅びゆく人々に、彼から永遠のいのちの水が川となって流れ出すためであった。」

「神はそのひとり子をお与えになったほどに、この世を愛された。

それは、御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

主よ、ありがとうございます。

イエスは言われました——

「わたしの言葉を聞き、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持つ。」

その人は、キリストの御霊の泉から飲み、もはや決して罪に定められることはなく、すでに死から命へと移っている。」

天の父よ——

あなたは、ここにいるすべての男も女も、少年も少女も、その心をご存じです。

今夜、この言葉をあなたに委ねます。

どうかあなたが、一人ひとりの心にお働きください。

そして彼らが、今夜“岩”に向かって語りますように——

「そうです、岩よ、世々の岩よ、わたしのために裂かれた岩よ」と。

父よ、どうかそれをお与えください。

私たちはこれを、御子の御名によって祈ります。アーメン。

56 では、どうぞ頭を垂れてお祈りください。

ここで、どなたか“岩”に向かって手を挙げてくださる方はいませんか——

この場にいる私ではなく、“岩”、すなわちキリスト・イエス、

永遠のいのちの泉に向かって。

「主よ、私は今、へりくだって参ります。

手を挙げてこう申し上げます——『どうか今、あなたの永遠のいのちを、

豊かに私の上にあふれさせてください。』」

——はい、姉妹、神があなたを祝福されますように。

——はい、兄弟、神があなたを祝福されますように。

神があなたを祝福されます。

ほかにどなたか、ここ1階の席で、手を挙げてこう言って

くださる方はいませんか。

「いのちの泉よ、私は参ります、私は参ります。

この手を挙げて、それを表します。」

——はい、私のメキシコ人の兄弟よ、神があなたを祝福されますように。

——はい、後ろに座っている小さな兄弟よ、

神があなたを祝福されますように。

57 「私は参ります——いのちの泉よ。

今、手を挙げます。

心から信じます——キリストは私の贖い主として死んでくださり、

私を神との関係に回復し、神の息子・娘として、

また聖霊との交わりの中へと導くために死んでくださったと。」

——はい、坊や、神があなたを祝福されますように。

——はい、神があなたを祝福されます。

ほかにどなたか、手を挙げてこう言ってくださる方はいませんか——

「主よ、私は自分をあなたにお捧げします。」

——はい、小さなご婦人、真ん中の通路の後ろに座っておられるのが見えます。

——はい、青年よ、神があなたを祝福されます。

——はい、そこの紳士、神があなたを祝福されます。

——はい、若いご婦人、神があなたを祝福されます。

——はい、メキシコ人のご婦人、神があなたを祝福されます。

——はい、こちら左手の若いご婦人、神があなたを祝福されます。

ほかにどなたか？

祈り続けてください。頭を下げたままで。

——さあ、今、応じる方が出ています。

——はい、姉妹、神があなたを祝福されます。

——はい、姉妹、神があなたを祝福されます。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう。

あなたはご存じですか、神が何とおっしゃったか。

「父が引き寄せなければ、誰もわたしのもとに来ることはできない。

しかし、わたしのもとに来る者には、永遠のいのちを与える。」

58 もし私を、神のしもべ——また預言者…いや、しもべとして——

私が語っているこのメッセージが真実であると信じてくださるなら…。

それは完全に行き届いているわけではありませんが、

私は持てるすべてを尽くし、心から語っています。

覚えておいてください。

神の御言葉はこう言っています——

このメッセージを毎晩真実であると証明してくださる、

神の御使いご自身がこう言われます。

「信じる者は永遠のいのちを持つ。」

ただ頭で信じるのではありません。

心からこう言ってください——

「主よ、私の魂を開いてください。」

イエス・キリストは約束されました——

私たちはもはや罪に定められることはなく、死から命へと移ると。

ただ、神へのしるしとしてこう言うだけで——

「主よ、ここに私がおります。私は今、信じます。」

ほかにどなたか、今…考えてみてください、友よ。

なんと単純なことか。

——はい、神があなたを祝福されますように。

白髪の子が手を挙げました。

おそらく生まれて初めてのこともかもしれません。

今、来られました——神はあなたに永遠のいのちを与えられます、兄弟。

あなたはこれまで、多くの立派な行いをされてきたでしょう。

おそらく多くの子どもたちの父であり、尊敬される方でしょう。

しかし、友よ——今、あなたがしたことこそ、

あなたの人生で最も偉大なことです。

やがて死の冷たい風があなたに迫るとき

(それが数年先かはわかりませんが)、

あなたはこの瞬間を思い出すでしょう——

「あの時、私は手を挙げた」と。

そして、この世を去ろうとするとき、神はそのことをあなたに

再び思い起こさせるでしょう——

「私はあの時、イエスを救い主として受け入れた」と。

もし神があなたにそれをするよう促されたのなら、

あなたは決して滅びることはありません。

59 なんと簡単な方法で、主はこれを備えてくださったことでしょう——

ただ、あなたを愛し、あなたを求めておられるのです。

ほかにどなたか、1階席で手を挙げてくださいますか。

すぐに祈りの列に進む前に、そしてバルコニーに上がる前に…。

——はい、お母さん、神があなたを祝福されますように。

——はい、白髪のご婦人、聖なる雰囲気をご漂わせるご婦人、

おそらく立派なお母さんでしょう。

——もう一人も、そしてもう一人も——二人並んで座っておられます。

神があなたを祝福されますように、姉妹。

私が「神があなたを祝福されますように」と申し上げても、

それ自体は大きなことではないかもしれません。

しかし、その意味するところはこうです——

私の心の奥底から、あなたが今求めておられる恵みを、
神が与えてくださるよう願っている、ということです。
そして神は、それをしてくださると約束されました。
だから私は、それを神にお願いするのがとても容易なのです——
神は必ずそれをしてくださると約束されたからです。

60 バルコニーの左手の方、どなたか——

「私は今、永遠のいのちを求めます」と言って手を挙げてくださいますか。

——はい、紳士、神があなたを祝福されますように。

——はい、ご婦人、神があなたを祝福されますように。

——はい、紳士、神があなたを祝福されますように。

——はい、そしてあなたも、あなたも、あなたも——すばらしいことです。神があなたを祝福されますように。

「私は今…」——はい、紳士、神があなたを祝福されますように。

——はい、ご婦人、神があなたを祝福されますように。

——はい、あちらの端にいる、小さなメキシコ人の少女たち、見えていますよ。神があなたを祝福されますように。

——はい、こちら左手に座っている小さな男の子、神があなたを祝福されますように。

そうです、坊や、よく聞いてください。

イエスは今、あなたに永遠のいのちをお与えになります。

なぜなら、今あなたの小さな心に何かが触れたからです。

坊や、あなたにできることはただ一つ——信じることです。

あとは神がすべてしてくださいます。

恵みによって、神があなたを救ってくださるのです。

さあ、良い子でいてください——そして、ここにいる皆さんも、良い神の子どもになり、主に仕えなさい。

神は必ずそうしてくださると約束されました。

「あなたが約束されたゆえに、私は信じます。

ああ、神の小羊よ、私はあなたのもとに行きます。」

【録音欠落】

61 尊き主よ、

この価値なき私の手をお取りください。

聖書の出来事を記念して——かつてあなたがユダヤ人にお取り扱いになられたように。

私たちはキリストにあつて死に、アブラハムの子孫となり、神を信じる信仰によって、霊的にユダヤ人とされた者です。

今、このハンカチの上に、祈れる限りのすべての信仰をもって身を横たえます。

ここにあるすべての人々、あなたのご存じのすべての方々を、どうか癒してください。

一枚一枚が、それぞれ定められた行き先に送られるとき、

それを受け取る者がみな、癒しを得ますように。

これを、主イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

62 では、これから病める方々のために祈りましょう。

本当に良い気持ちだという方は、「アーメン」と言ってください。

——[録音欠落]——西部にて。

それは、あなたがアメリカ人として持つ自由です。

しかし、私の心の中では——

この聖なる講壇の上で、私が真実を語っているかどうか、神のご存じです——

私はなお、あなたを愛しています。

どうしてもそうなのです。

私の内には「あなたは私の兄弟だ」と告げる何かがあるのです。

私たちは同じようには信じていないかもしれません。

しかし、それでも私たちは兄弟です。

あなたが倒れているとしても——私はなお、あなたを愛しています。

たとえあなたが密造酒を売る者であっても、あるいは売春婦であっても——

私はなお、あなたを愛しています。

その通りです。

私自身の肉の思いでは、そうできないかもしれません。

しかし、この内にある「何か」が、あなたを愛しているのです。

私はそれを止めることはできません。

私はあなたを悪く見ることはありません。

ただ、あなたに主のもとへ来て、正しい関係に立つてほしいのです。

63 さて……あなたは、どのカードを配ったと言いましたか？

P、Q、R？

では、その中から何人か並んでいただきましょう。

今夜は……そうですね、まず番号1から始めましょう。

祈りのカード——ええと、Bですか、それともPですか？

Pですね。

祈りのカードの裏には、L、M、O、P——そのPです。

そこから始まります。

番号1をお持ちの方はどなたですか？

1から100まででしたね？

番号1をお持ちですか？

はい、では番号2、番号3……。



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7